

# 日事 知る あの

静岡県知事

## 川勝平太



### ◎はばたく静岡国文祭開催

十月二十四日(土)

第24回国民文化祭・しずおか2009(愛称「はばたく静岡国文祭」)の開幕である。「開会式・オープニングフェスティバル」会場のグランシップ(静岡市)のホールは埋め尽くされた。

皇太子殿下の御臨席を仰いだ「開会式・オープニングフェスティバル」では、各市町代表が高らかに開会を宣言、小椋佳氏のプロデュースになる「今様膝栗毛」を開演。十返舎一九「東海道中膝栗毛」をモチーフに、弥次さん、喜多さんを父と娘に置き換えて、二人が静岡の旅をしながら、ふるさとに息づく伝統文化、生きることの尊さに目覚め、希望をもって新たな人生に踏み出していくストーリーだ。二人の旅をいざな

うのは三光鳥(静岡県の県鳥)の精。その役はミスユニバース2007の森理世さん。華麗なダンスで、最後



ミュージカル「今様膝栗毛」膝栗毛隊の艶姿

は本当に空中に舞い上がり、会場が華やいだ。このミュージカルには、オーディションで選ばれた九十二人、中学一年生から六十四歳までの県民の皆さんが出演した。彼ら「膝栗毛隊」は心一つに、本番に向けて練習に練習を重ね、その成果を見事に出し切った。

膝栗毛隊、地元の伝統芸能の担い手、すべての出演者の熱い思いが会場を包み、舞台と観客席が一体となり、感動の渦が巻いた。客席からは「ブラボー!」の喝采。

はばたく静岡国文祭は、県内三十七の全市町を舞台に展開。九十五事業、百六十メニューの文化芸術活動が、二百八十六会場で、静岡の秋を十六日間にわたり彩っていくだろう。

### ◎「事業仕分け」の実施

十一月二日(月)

「この事業はなぜ必要か?」「施設だけでなく事業全体の整備計画との関係は?」「償還利子も含めたトータルコストは?」「県庁の広い会議室を埋め尽くす県民や関係者等が見守る中、構想日本の仕分け人チームや、県民から公募した委員が繰り出す質問に、県の担当者は「目からうろこが落ちる」経験をするようになった。

私は、無駄の排除と透明性の高い『見える県政』を推進するため、マニフェストに「事業仕分け」を掲げて。それを十月三十一日から三日間かけて実施した。旧知の加藤秀樹氏(構想日本の代表)は、仕分けを快諾してくれたが、その後、彼は政府の行政刷新会議の事務局長に任命され、政府の事業仕分けを担当することになったので、人選の正しさが証明された形になった。

初日には、加藤氏の見守る中、仙石行政改革担当大臣ほか数名の国会議員が本県の事業仕分けを熱心に視察。国の実施に先駆けた本県の取組みは、全国的に注目された。静岡県政は日本政府の半歩先を歩んでいるのだ。

本日は、仕分けの最終日。平日ながら、最後まで県民の高い関心の中で、作業は緊張感をもって進んだ。県が抽出した百一事業のかなりの部分が改善を求められた。このように

仙石行政改革担当大臣(右から三人目)も視察



予算にかかわる議論の公開は画期的で、県職員の意識改革につながっている。また、県民の皆様の行政運営について理解と関心を高める効果があったのを実感し、取組みは成功した。今後は、担当部局で議論の自身を精査してもらい、私が最終的に判断し、事業計画に反映させて、議会にお諮りし、来年度予算や組織編成などに活かしたい。

一方で、「事業仕分け」の手法が、教育・芸術・研究のような計算化になじまない分野には不適切だということも分かり、その成果をよく吟味し、本県の新たな行政改革の取組みにつなげていく決意である。

◎「食の芸術(の集い)」の開催

十一月二十日(金)

抜けるような秋空のもと、冠雪した富士山を借景にした、静岡市の日本平山麓の「舞台芸術公園」で、県内外で御活躍の皆様をお招きし、「食の芸術(の集い)」を開催した。周囲の緑の景観を楽しみながら、多彩で豊かな静岡の食材をふんだんに持ち込んでいただいて、その場で料理し、できたての料理を食していただき、お腹を満腹にして、あわせて、SPAC(静岡県舞台芸術センター)の宮城監督の率いる舞台芸術作品を鑑賞して、心も満たしてもらおうという趣向である。

静岡県では温暖な気候と変化に富んだ自然のもと、風土を生かした先人たちの創意工夫や高い生産技術で、「農芸品(芸術性をもった農産物)」と呼ぶべき全国に誇る食材が生産されている。その多彩な品目数は全国第一位の百六十七品目を数える。また、産出額や産出量では、全



イケるんですよ、これが

国第十位以内を誇る産物が七十品目あり、そのうちの十七品目は全国第一位なのである。

舞台芸術公園に、「大地の恵み」、「緑の恵み」、「水の恵み」のコーナーを設け、温室メロン、特選和牛静岡そだち、本山葵、肉厚椎茸、桜えび、金目鯛など県内農芸品でのおもてなしに、皆様は舌鼓を打ち、明るい笑顔が広がった。富士山を望む小劇場「稽田堂」では、静岡の新銘茶と各種コンテストで最優秀となったスイーツを御賞味いただく。富士山の形をしたタジン鍋「富士山静岡鍋」も大好評!

SPACは、専用の劇場と稽古場を拠点に、専属の俳優、専門技術スタッフが活動を行う日本初の公立の文化事業集団だ。オリジナルの舞台作品は国内外で高い評価を受け、世界十一ヶ国から招聘されて公演を行ってきた実績を有する。

本日はその稽古風景を御覧いただき、また希望者には生誕百周年を迎えた太宰治の原作、SPAC版「走れメロス」を鑑賞してもらう。「BOXシアター」という客席と舞台が入り混じる濃密な空間の中で、友情の物語に観客はひとしく心打たれる。

参加者の皆様から、「静岡の食材や芸術の魅力を再認識した。」「この素晴らしい舞台芸術公園をもっと多くの人に知ってもらいたい。」などのお声をいただいた。国内外の人々

美味しさの噴煙が立ち上る「富士山静岡鍋」



が静岡の食文化や舞台芸術に魅せられること、それは静岡のもつ文化力の高さを業である。経済力を軸に東京に国力を集中してきた時代は終幕を迎えつつある。

二十一世紀、ポスト東京時代への胎動が、「ふじのくに」の静岡県で始まっている。人々の憧れを集めるのは芸術文化の力だ。「農芸品」の食材の魅力を生かした「食の都」づくりを目指し、国民文化祭で発揮された県内全域の文化・芸術力を未来へつなぎ、静岡県を「ふじのくに」という新しい日本の顔にしていく決意である。